

一般社団法人日本カウンセリング学会 2025 年度 東関東支部会全国研修会 前期 対面・少人数の1日ワークショップ

日本カウンセリング学会会員の皆様、お元気ですか？

東関東支部会は、2年間お休みをしていました全国研修会を2025今年度、NPO 法人カウンセリング教育サポートセンターとコラボして、前期2講座、後期1講座を開講することいたしました。ONLINE研修が増えて少しZOOM疲れも感じている今日この頃、本研修会は顔を合わせて、対面の研修会といたします。

各講座の特徴は、知的学びだけではなく、腑に落ちる、体験的な学び、顔が見える講座を揃えました。

皆様のご参加をこころからお待ちしています。

東関東支部長 笈田育子・運営委員一同

- 主催 (一社)日本カウンセリング学会東関東支部会/NPO 法人カウンセリング教育サポートセンター
- 期日 2025年 前期①:7月21日(祝月) 前期②:9月15日(祝月) 後期①:12月7日(日)
- 会場 東京都品川区(受講の方に直接おしらせします。)
- 研修講座

NO	月日・時間	講座名	講師	定員	時間
前期①	7/21(祝月) 10:00~16:00	フォーカシング-身体感覚を磨く- (養成カリキュラムD①※ 2ポイント)	村里 忠之	16名	5h
前期②	9/15(祝月) 10:00~17:00	信頼関係構築の対話法 (養成カリキュラムD①※ 2ポイント)	小林 孝雄	20名	6h
後期①	12/7(日) 10:00~17:00	EAMA エンカウンター・グループ (養成カリキュラムD②※ 2ポイント)	諸富 祥彦	20名	6h

5. 受講料:各研修 *日本カウンセリング学会会員:8,800円
*NPO CESC 会員:8,800円
*一般:12,000円
*学部生・院生(社会人学生を除く):5,000円

差出人(M) v	cesc@npo-cesc.or.jp
宛先(T)	
CC(C)	
件名(U)	【東研申込】笈田育子

6. 受講申込手順

- メールの件名欄に【東研申込】および貴方のお名前を入れてください。
- メール本文に受講希望研修講座を記載してください。
(前期①フォーカシングなどと記載ください。)
- 下の①~⑦を記載してください。

- ① 受講者氏名(ふりがな) ② ファイル添付可能なメールアドレス ③ 携帯電話番号
- ④ 住所 ⑤ 会員番号 ⑥ 所有資格名称 ⑦ 勤務先名・職種

★学部生・院生は大学名・学年・生年月日を明記ください。★住所は市区まで。(例:東京都品川区)

(4)送付メールアドレス:jacshigashi@gmail.com

(5)申込を受理後、振込先等を記載した受理メールをお送りします。(しばらく時間がかかることがあります。)

(6)受理メールに記載されている振込先に受講料をお振り込みください。(振込明細書は保管ください。)

(7)入金を確認後、受講に必要な情報をメールでお送りいたします。受講料納入が正式申込となります。

7. 申込締切日:講座開始3週間前まで 前期①7/6(日)、前期②8/31(日)、後期①11/23(日)

8. 受講取り消しについて

受講取り消しの場合は必ずご連絡ください。返金はいたしかねますが、代理の方の参加を認めます。

9. 研修証明証について:全時間参加(講座内でレポートあり)の方に発行。メール添付でお送りします。

研修証明証は「日本カウンセリング学会カウンセリング心理士」資格取得、更新時のポイントとして有効です。

一般社団法人日本カウンセリング学会東関東支部

品川区西五反田 5-5-2-303NPO カウンセリング教育サポートセンター内 Mail:jacshigashi@gmail.com

前期①【フォーカシング-身体感覚を磨く】講師:村里忠之(村里心理療法研究所)

フォーカシングは、自分の無意識の深い部分ではなく、その時々のがかりに関する、はっきりとは気付いていないが注意を向ければ(フォーカスすれば)感じられてくる身体感覚(これをフェルトセンスと言います)に安全にフォーカスする心理技法です。それは最初は微かではっきりしないが、そこにフォーカスしていると、そこからさまざまな気づきや展開(フェルトシフト)が生じます。

これはロジャーズの許でカウンセリングの実践を学んでいた若き現象学者ユージン・ジェンドリンが、カウンセリングを通して良くなるクライアントの体験プロセスを抽出して再構成した心理技法です。

フォーカシングは、クライアントへの適用も有効ですが、カウンセラー自身の自己理解の体験とトレーニングに、そして職業を問わず自分のより善いより賢い生き方を求める人には、具体的で確かな実践方法です。

先ず自分でそれを実践できるように練習してみましょう。

プロフィール:1981年早稲田大学大学院文学研究科哲学専攻博士後期課程満期退学。2000年学習院大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士後期課程退学。2004年帝京平成大学健康メディカル学部臨床心理学科准教授。現在、村里心理療法研究所。臨床心理士。

著書:『ジェンドリン哲学入門』(共編著 コスモス・ライブラリー 2009)『主観性を科学化する』質的研究法入門』(共編著 金子書房2016)ほか。訳書にジェンドリン『フォーカシング指向心理療法』(共訳 金剛出版 1998)『プロセスモデル』(共訳 みすず書房 2023)ほか。

前期②【信頼関係構築の対話法】講師:小林孝雄(文教大学)

ロジャーズは自らの経験から、人間の人格的成長や変化は、ある種の対人関係によって起きるとの確信を抱き、その対人関係とはいかなるものかを追究しました。一致、無条件の肯定的配慮(受容)、共感的理解(または感情移入的理解)として知られるカウンセラーの態度が、その対人関係を実現する条件として指摘されています。これらの態度条件をどのようにカウンセラーは実践したらよいのか、その一つのみならず、聴くこと、「傾聴」と考えられます。傾聴は、さまざまな対人援助のアプローチで重要視されており、技法やスキルもさまざまに存在します。ロジャーズのアプローチにおける「傾聴」は、「傾聴」が何かほかのことをするための準備や手段ではなく、「傾聴」そのものが、人間的成長や変化をもたらす関係を実現すると考えられています。そのような「傾聴」は、他のアプローチや領域でおこなわれているいわゆる「対話」においても、信頼関係の形成や醸成を果たす可能性がります。このロジャーズが想定していた「傾聴」を知り、「対話」のあり方を見つめる機会としたいと思えます。

プロフィール:2000年東京大学教育学研究科総合教育科学専攻博士課程中退。東京大学学生相談所助手(専任相談員)。2003年より文教大学人間科学部。臨床心理士、公認心理師

著書:『カウンセリング実践ハンドブック』(共著 丸善 2011)『がん患者のところに寄り添うために—サイコオンコロジーの基礎と実践』(大木桃代真興 交易(株) 医書出版部 2010)『学校で役立つ臨床心理』(共著 角川学芸出版 2010)『カウンセリングのエチュード』(共著 遠見書房 2010)『心理療法がうまくいくための工夫』(共著 金剛出版 2009)

後期①【EAMA エンカウンター・グループ】講師:諸富祥彦(明治大学)

EAMA(体験—アウェアネス—意味生成アプローチ)は、ロジャーズのほんものの傾聴をベースにした、最新の統合的アプローチです。EAMA方式のエンカウンター・グループでは、参加者全員が一人のメンバーになりきって聴き、映し出しをしていきます。安心できる雰囲気の中で、一人一人が自分の人生を自己探求し、人生をじゅうぶんに生ききって、意味のあるものにしていくのをサポートします。最高に楽しくてエキサイティング!

プロフィール:1963年福岡県生まれ。1986年筑波大学人間学類、1992年同大学院博士課程修了。英国イーストアングリア大学、米国トランスパーソナル心理学研究所客員研究員、千葉大学教育学部講師、助教授を経て、現在、明治大学文学部教授。

著書:『自己探究カウンセリング入門』、『カウンセリングの理論(上)(下)』誠信書房 その他多数。
『思春期の子の育て方』WAVE出版 『カール・ロジャーズ カウンセラーの原点』角川選書

一般社団法人日本カウンセリング学会東関東支部

品川区西五反田 5-5-2-303NPO カウンセリング教育サポートセンター内 Mail: jacshigashi@gmail.com